

## ダイズ葉焼病の発生状況と被害

8月中旬から大豆の葉にハローを伴う褐色の斑点が多数発生し、被害株は健全株に比べて、2週間程度落葉が早くなった。これは、症状がジャガイモヒゲナガアブラムシの吸汁による被害に似ているが、細菌病であるダイズ葉焼病によるものであった。



図-1 平成14年のダイズ葉焼病発生ほ場



図-2 平成12～13年のジャガイモヒゲナガアブラムシ被害発生ほ場



図-3 ジャガイモヒゲナガアブラムシの吸汁被害



図-4 ダイズ葉焼病の症状

1. 発病が激しいときには葉全体が淡黄色となり、全体として葉が焼けたような症状となる。病斑部の外側にはハローと呼ばれる黄化部分がある。  
(図-4)
2. ジャガイモヒゲナガアブラムシの吸汁痕と似ているが、葉裏を観察することにより区別できる。ただし、混発することもあるので防除は十分な診断が必要である。また、落葉はジャガイモヒゲナガアブラムシの被害の場合は下葉からダイズ葉焼病の場合は上部の葉から起こる傾向がある。
3. 発病程度が高くなるほど収量が少なくなり、その要因としては粒肥大が不十分で粒厚が薄くなるためと考えられた。減収割合は無発病対比で、少：5～10%、中：15～25%、多：25～30%と推定された。また、発病程度が高くなるほど、未熟粒・奇形粒・しわ粒が増加する傾向がみられた。割合は無発病対比で、少：2～3倍、中・多：3～4倍程度と推定された。  
(農業試験場庄内支場)

(参 考)

$$\text{発病度} = \frac{4A + 3B + 2C + D}{4 \times \text{調査株(茎)数}} \times 100$$

程 度	E	D	C	B	A
病斑面積率	発病なし	1～25%	26～50%	51～75%	76%以上

<発病程度別基準>

程 度	無	少	中	多	甚
発 病 度	0	1～25	26～50	51～75	76以上

【留意事項】

一見、ジャガイモヒゲナガアブラムシによる吸汁被害と類似しているが、葉裏への同種の寄生の有無により容易に区別できる。間違えて薬剤散布しないように注意する。ただし、同じ細菌病の「斑点細菌病」との区別は病徴からはできない。

問い合わせ先 山形県病害虫防除所庄内支所 執筆者：阿部雄幸  
TEL：0235-78-3115 e-mail：ybyogaisho@pref.yamagata.jp

禁無断転載